

標準化における 競争と協調

規格調査会委員長 羽鳥光俊



故高木幹雄先生の後任として、昨年5月から、規格調査会委員長を務めさせて頂いております。

規格調査会は、委員長と幹事2名（1名は学会の調査理事、1名は規格調査会専属）、1号委員6名（経済産業省から1名、NTT、三菱電機、東芝、NEC、富士通から各1名）、2号委員7名（IECのTC3/SC3D（電子部品のデータ要素）、TC46（通信用伝送線及びマイクロ波受動部品）、TC49（周波数制御・選択デバイス）、TC86（光ファイバ（光ファイバ・ケーブル、光コネクタ、光受動部品・アクティブデバイス）、小生はこのTC86の国内委員長）、TC93（デザインオートメーション）、TC103（無線通信用送信装置）の各国内委員会委員長、用語より1名）、オブザーバ5名（国際幹事・議長等）をメンバーとし、IECのTC国内委員会の報告、情報交換を行っています。かつて、故柳井委員長の時代まで、TC47（半導体デバイス）の国内委員会委員長等も2号委員でしたが、国内委員会に対応する工業会がある場合には、学会から工業会へ国内委員会は移行してほしいとの工業技術院の意向で、TC47国内委員会はEIAJ（現JEITA）に移行しました。また、当時、IEEEの標準化と同様な標準化を規格調査会が行う可能性が検討されましたが、他の標準化団体との競合、財政上の困難により見送られ、今日に至っています。

2006年が、IEC創立100周年であることから、記念事業が行われ、規格調査会もこれに協力して、大会での講演会や、「出前授業」と呼ぶ経済産業省が御提案の企画に協力しております。これらの活動を通じて、研究者や学生、大学の先生方に、標準化の意義・重要性に理解と関心を持って頂き、活動して頂けることを祈念しております。

規格調査会がお手伝いしている標準化は、IECのTCの国内委員会です。ほかに、ITUの標準化（総務省、ARIB、TTC）、ISO、JTC-1、IEEE等の標準化、各種フォーラム（インターネットフォーラム等）によるデファクト標準化があります。更に、JISやARIBの標準化、TTCの標準化等の国内標準化があります。

標準化の意義と重要性は、技術的に優れた、あるいは、コストパフォーマンスに優れた、できれば唯一の、できなければなるべく少数のものを標準化することにより、品質や安全の保証、通商や保守上の利便、接続性、相互運用性上の利便が実現されます。

標準化に協調が求められるゆえんです。

標準化のもう一つの側面は競争です。

- ① 企業や国、地域の技術・基準を標準化して、有利な通商を行う
- ② 逆に、企業や国、地域の基準を国際標準に提案しない、すなわち、企業や国、地域の基準により、有利な通商を行う
- ③ 標準化の Patent Policy として、無料（第一選択）ないしは適正な特許料で無差別な公開（第二選択）が求められることが多い。特許を差別的に公開（第三選択）することを宣言し、標準化の土俵に登らない
- ④ 第二選択において、適正か高額かの判断は難しい

等を武器とする力の論理があります。

競争による進歩は好ましいことですが、協調に欠ける競争は遺恨を残すことがあります。バランスのとれた標準化を追求したいものです。

一言。国際標準化に大事なものは語学力、特に、聴く力ですね。